

蘇東坡 年譜

〔蘇東坡100選〕石川忠久

地名の（ ）内は、現在の省名。
時事のうち、*印は日本の事項。

皇帝		年号	西暦	年齢	事跡	時事
仁宗		景祐 三	一〇二六	一	十二月十九日、四川の眉州眉山県紗穀行に生れる。父は蘇洵、母は程氏。	五月、范仲淹、歐陽修ら左遷される。
		宝元 元	一〇二八	三	兄の景先没する。	西夏建国。以後、宋に侵攻。司馬光、進士に及第。
		慶曆 二	一〇四二	七	弟の轍生れる。	このころ活版印刷術発明される。
		三	一〇四三	八	このころから書を読み始める。眉州の老尼朱姓から五代の後蜀の話聞く。	
		五	一〇四五	一〇	小学に入り、眉山県天慶観の道士張易簡に学ぶ。	
		七	一〇四七	一二	父蘇洵、官吏生活見習いのため旅に出る。	黄庭堅生れる。
		皇祐 元	一〇四九	一四	祖父の蘇序没する。	*『本朝文粹』このころに成る。
		五	一〇五三	一八		秦観生れる。
		至和 元	一〇五四	一九	王弗(ときに十六歳)を娶る。	十月、契丹が西夏を攻撃。
		嘉祐 元	一〇五六	二二	三月、父の洵に連れられて、弟の轍と首都開封(河南)に赴く。	陳師道・晁補之生れる。
		二	一〇五七	二三	八月、開封府試(予備試験)に弟の轍と共に及第。	張耒生れる。
		四	一〇五九	二四	正月、轍と共に礼部の試(省試)に及第し、三月、殿試をへて進士及第となる。	
		五	一〇六〇	二五	四月、母急逝。五月、眉山に帰り服喪。母の服喪終わる。	
		六	一〇六一	二六	十月、父の洵、弟の轍と再び開封に向かい、十二月、荊州(湖北)に至る。	
		八	一〇六三	二八	長子の邁生れる。	
		七	一〇六二	二七	二月、開封に着く。河南府福昌県主簿に任せられるも赴任せず。	梅堯臣没する。
		八	一〇六三	二八	父の洵、試校書郎となる。	歐陽修『新唐書』成る。
		七	一〇六二	二七	制試に応じ、東坡は第三等、轍は第四等に及第。	
		六	一〇六一	二六	大理評事・鳳翔府(陝西)簽判となり、洵や轍と初めて別れて旅立つ。十二月、鳳翔府に着く。	
		七	一〇六二	二七	孔子廟で石鼓を見る。	
		八	一〇六三	二八	鳳翔在任。	
		七	一〇六二	二七	鳳翔在任。大理寺丞を授けられる。	三月、仁宗崩じ、四月、英宗即位。
		八	一〇六三	二八	伯父の蘇渙没する。	

神宗				神宗				英宗		皇帝						
元豐				熙寧				治平		年号						
四	三	二	元	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	元	三	二	元
一〇八一	一〇八〇	一〇七九	一〇七八	一〇七七	一〇七六	一〇七五	一〇七四	一〇七三	一〇七二	一〇七一	一〇七〇	一〇六九	一〇六八	一〇六七	一〇六六	一〇六五
四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇
事跡				事跡				事跡		事跡						
<p>三月、知湖州(浙江)軍州事に任じられる。朝政諍諍の科により捕らえられ、八月、御史合の獄に投ぜられる。弟の轍も兄の罪に連座して、筠州(江西)の監塩酒官として流謫される。十二月、恩赦により、黄州(湖北)団練副使として流謫される。二月、黄州に至る。八月、子の邁と、九月にはひとりで、赤壁に遊ぶ。二月、馬夢得の好意によって与えられた</p>				<p>八月、父を眉州に葬る。七月、服喪終わる。王弗の従妹の王閏之を娶る。十二月、家族・弟の轍らと開封へ向かう。正月、長安に赴き、二月、開封に帰る。王安石と意見が衝突して監官誥院となる。八月、弟の轍が河南府推官となる。次男の途生れる。二月、轍は知陳州の張方平に迎えられ教授となる。地方転出を願い、六月、杭州(浙江)通判となり、十一月、着任。六月、望湖楼に登る。十二月、湖州(浙江)を歴遊。三男の過生れる。杭州在任。九月、権知密州(山東)軍州事に任じられ、十一月、密州に着任。朝雲を侍妾とする。密州在任。密州在任。四月、知徐州(江蘇)軍州事として着任。徐州在任。</p>				<p>八月、父を眉州に葬る。七月、服喪終わる。王弗の従妹の王閏之を娶る。十二月、家族・弟の轍らと開封へ向かう。正月、長安に赴き、二月、開封に帰る。王安石と意見が衝突して監官誥院となる。八月、弟の轍が河南府推官となる。次男の途生れる。二月、轍は知陳州の張方平に迎えられ教授となる。地方転出を願い、六月、杭州(浙江)通判となり、十一月、着任。六月、望湖楼に登る。十二月、湖州(浙江)を歴遊。三男の過生れる。杭州在任。九月、権知密州(山東)軍州事に任じられ、十一月、密州に着任。朝雲を侍妾とする。密州在任。密州在任。四月、知徐州(江蘇)軍州事として着任。徐州在任。</p>		<p>鳳翔在任。十二月、開封に召還される。正月、開封に着き登聞鼓院の判官に任ぜられたが就かず、直史館に任ぜられる。五月、妻の王弗没する。父の洵、『太常因革礼』百卷の編纂を終り、四月に没する。父の服喪のため、六月、故郷の四川眉州へ向かう。</p>	<p>正月、英宗崩じ、神宗即位。四月、王安石、上京して政治意見書を奉る。二月、王安石、參知政事となり、改革に着手。七月、均輸法を、八月、青苗法を施行。新法実施。八月、西夏が宋を攻撃。十二月、王安石、同平章事となる。欧陽修没する。</p>					
<p>文同没する。王安石、隠棲する。</p>				<p>王安石、失脚。八月、黄河決壊。</p>				<p>契丹、国号を遼と称す。</p>		<p>時事</p>						

哲宗					神宗					皇帝							
紹聖					元祐					年号							
四	三	二	元	九	八	七	六	五	四	三	二	元	五	西曆	年齢	事 跡	時 事
一〇九七	一〇九六	一〇九五	一〇九四	一〇九四	一〇九三	一〇九二	一〇九一	一〇九〇	一〇八九	一〇八八	一〇八七	一〇八六	一〇八二	四七	<p>荒れ地を開墾し、東坡と名づける。 二月、東坡の傍らに雪堂を築く。東坡居士と号する。 七月、赤壁に遊ぶ（赤壁の賦）。 十月、赤壁に遊ぶ（後赤壁の賦）。 黄州に在り。 三月、汝州（河南）団練副使に移される。 上書して常州（江蘇）居住を乞う。汝州団練副使のまま常州居住を許される。五月、名譽を回復し、朝奉郎に復し、七月、知登州（山東）軍州事に任ぜられる。十月、登州に着任。 ほとんど礼部郎中として召還される。</p>		
六二	六一	六〇	五九	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	四七	<p>三月、弟の轍、哲宗の逆鱗にふれて官のまま知汝州に貶謫される。 朝政諂諂により、四月、知英州（広東）軍州事に、さらに六月、建昌軍司馬惠州安置に流謫され、十月、惠州（広東）に着く。惠州に在り。 七月、侍妾の朝雲没する。 閏二月、長男の邁は韶州仁化県令となる。四月、瓊州別駕昌化軍安置に移され、末子の邁を連れて海南島に渡り、瓊州をへて七月に儋州に着く。</p>	<p>新法復活。 四月に紹聖と改元。 張方平没する。</p>		
														<p>王安石、司馬光没する。 朋党の禍おこる。</p>	<p>會鞏没する。 司馬光『資治通鑑』を完成。 三月、神宗崩じ、十歳の哲宗が即位、宣仁皇太后が政を執る。 新法廃止はじまる。</p>		



「東坡笠屐圖」(海南省儋州東坡書院蔵の拓本)

徽宗		哲宗	皇帝
崇寧元	建中靖國元	元符元	年号
一一〇二	一一〇一	一一〇五	西曆
	六六	六三	年齢
閏六月、汝州(河南)に葬られる。弟の轍、墓誌銘を撰する。	五月、北へ帰る旅行中に大病にかかり、常州毘陵(江蘇)の孫氏の館に臥す。六月、致仕を上奏。七月二十八日、常州毘陵にて永眠。	五月、廉州(広西壮族自治区)安置として六月に大陸に再びもどる。八月、舒州団練副使として永州(湖南)居住を命ぜられる。十一月、名譽回復し朝奉郎に、提舉成都府玉局觀に任ぜられ、居は自由となる。	海南島の儋州に在り。
		秦觀没する。	時事
		六月に元符と改元。正月、哲宗崩じ、徽宗即位。	